

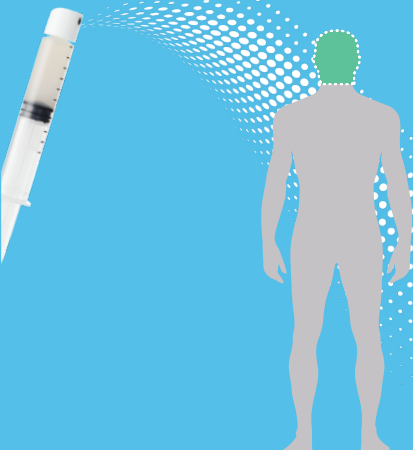
CASE STUDY

Jeffrey Carter, MD
University Medical Center, New Orleans, LA

患者の状態

未知の可燃性液体と火炎による11% TBSAの顔面部への深達性部分層熱傷を受傷した31歳女性(図A)

RECELL 治療部位



結語

本症例では11%TBSAの顔面部深達性部分層熱傷に対し、自家細胞懸濁液(Spray-On Skin[™] Cells)を単独使用した治療効果が示された。術後9日後には創部の完全上皮化が確認された。

RECELL単独使用により、周辺の皮膚との色相と近い状態にまで色素が再生した。

RECELL[®]単独使用による顔面熱傷治療後の色素再生

治療日



術後6日



術後9日



術後2か月



術後3か月



術後12か月



治療法

入院日当日にこの患者に対しハイドロデブリードマンを実施し、バシトラシン塗布後、Xeroform[™]で被覆を行った。保存的治療及び創部保護から6日後、顔面部の自然治癒が望めないとの判断に至った。顔面部に対し、術中に健康な母床が確認できるまで、Versajet[®]によるデブリードマンを行った。アログラフトを顔面部に使用してから7日後、創傷部の浮腫と境界が改善したため、顔面部へのRECELL使用が決定された。RECELLシステムを使用し、Spray-On Skin[™] Cellsを作成、母床への適用を行った。その後の治療部位の被覆にはTelfa[™] Clear及びXeroform[™]を使用した。

臨床的アウトカム

術後6日目にドレッシング材の除去を行った(図B)。術後9日目、100%の再上皮化が確認され、感染や炎症の兆候は見られなかった(図C)。この患者の色素再生は、術後2か月(図D)、術後3か月(図E)、術後12か月(図F)とその後も継続して見られた。

本紙に掲載している症例は、臨床成績の一部を紹介したものです。全ての症例で同様の効果を保証するものではありません。

